

甦った『桂浜 龍王岬』～高知港海岸局部改良事業工事報告～

高知県高知新港建設事務所 正員 池田 博文

1. まえがき

土佐湾の中央部、浦戸湾の湾口部西側に位置し、黒潮の流れる雄大な太平洋に面した美しい海岸が、よさこい節にも歌われ、全国的にもその名を知られ親しまれている高知屈指の景勝地、高知港海岸桂浜である。

この景勝地桂浜で要ともなっている龍王岬は、景観上重要な位置を占めているが、近年、激しい波浪等による自然営力により崩落の危険があり、昭和62年には公園としての防災の見地から、部分的にコンクリート擁壁で固める応急的な欠落防止工事が行われました。⇒(写真-1・・・桂浜入口テラス台地より写)

しかし、未施工部分の亀裂やこの擁壁基礎部の浸食等に対する防災対策が早急に望まれ、あわせてコンクリートむき出しの要塞を思わせるような単純な擁壁ではなく、周囲にマッチした修景が切望されるようになり、平成4年度、海岸保全区域に位置することから、運輸省海岸局部改良事業として工法の検討に入った。翌平成5年度、GRC製の造景岩パネルを型枠兼用の被覆材として用いた、造景岩被覆工法による海岸護岸工事に着手、平成8年3月には、造景岩護岸約630㎡が完成し、桂浜に美しく雄大な景観が甦った。

そこで、当護岸工事が海岸整備モデル事業として、自然環境の保全と防災機能の強化を両立した、全国的にも極めて例の少ない、施工条件の厳しい自然海岸での施工事例であることから、工事報告として紹介する。

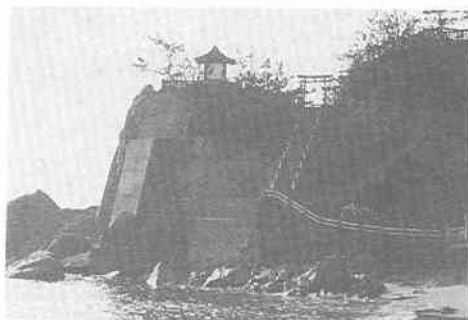


写真-1 改良前の龍王岬



写真-2 改良後の龍王岬

2. 龍王岬の地形・地質

桂浜地域は地質系統上、白亜系が広く分布する四万十帯北帯に位置しており、龍王岬の岩質は、図-1に示すように砂岩や泥岩、及び砂岩・泥岩の互層からなっている。地質構造的に見ると、南北方向から大きな圧縮力が加わって形成された褶曲構造や小断層が発達しており、背後の山体から尾根先端の岩体が島状に分断された龍王岬では、現在顕著な海蝕崖地形が見られる。島状部の東面、南面は、特に強い波浪浸食作用を受け、傾斜が60°～70°の断崖と崖裾部の海食テラスが見られる。断崖面にはまちまちではあるが、ヘアクラックから1cm位までの開口幅をもつ亀裂が1～7m程度の間隔で存在し、岩体はかなりブロック化している。

この龍王岬島状部においては、図-1に示すように6箇所の斜面崩壊と2箇所の斜面が緩んでいる箇所が認められ、その全体的な特徴としては流れ盤地すべりとなっている。

特に、向斜構造を形成している砂岩層には、南北性の走



図-1 龍王岬地質図

